

## 若手漁業者の定着する漁村を目指して

— 就業環境の改善と就業者確保の取り組み —

とやま市漁協水橋町青年部

小笠原 慶和

### 1. 地域の概況

とやま市漁協は、平成14年4月に富山市にある水橋町、岩瀬、四方の3漁協が合併した組合であり、私はとやま市漁協水橋支所及びとやま市漁協水橋町青年部に所属している。富山市水橋地区は、富山県のほぼ中央にある常願寺川と上市川の河口の間に位置している（図1）。また、水橋地区の沖には、沿岸から急激に深くなっている海底谷「あいがめ」があり、シロエビ等の漁場となっているほか、水橋から魚津にかけての海域は「ホタルイカ群遊海面」として特別天然記念物に指定されている。

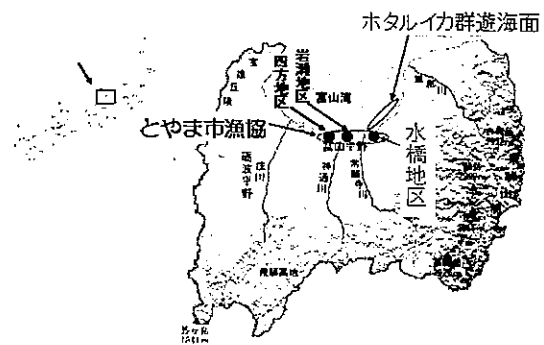


図1 とやま市漁協（水橋地区）の位置図

### 2. 漁業及び研究グループの概要

とやま市漁協水橋支所は正組合員30人、准組合員40人の計70人で構成されており、主な漁業種類は、定置網漁業、ごち網漁業、刺し網、一本釣りなどである。このうち、年齢20～30歳代の組合員で構成する青年部の部員は8名である。

定置網は、4ヶ統が12月から翌年6月までの期間営まれており、主にホタルイカを漁獲しているほか、冬にスルメイカやヤリイカ、春はアジ、サバ、タイなどを漁獲している。また、ごち網漁業では、4～10月にはシロエビ、9～5月にはホッコクアカエビを漁獲している。その他に1年中操業できる漁業として、刺し網ではヒラメ、アマダイ、ノドグロ、キス、ワタリガニなど、一本釣りではタチウオやツバイソなどを漁獲している。

平成21年10月には、水橋漁港に新しい荷さばき施設が完成し、沖合の清浄な海水の取水施設も整備され、より鮮度の良い魚が出荷できる体制が整った。



【10月に完成した新しい荷さばき施設】

### 3. 実践活動の動機

私はもともと魚や海が好きで、体を動かす仕事が合っていると思っていたことから、漁業に興味を持っていた。漁業を始めたいと思い、色々と調べていると、富山県の水橋の定置網「水橋漁民合同組合」で求人募集をしていたので、一日体験をさせてもらい、やはり漁業が自分に合っていると直感した。また、水橋漁民合同組合は、組合員一人一人が経営者である「網組」方式で、給料体系は完全歩合制である。このため、自分が頑張った分だけ給料がもらえることから、やりがいを強く感じ、体験させてもらった水橋漁民合同組合に「本格的にここで定置網の仕事をしたい」という気持ちを伝えた。そして、まずはアルバイトとして働かせてもらうことになり、平成13年、それまで住んでいた愛知県から富山県に移り住んだ。

しかし、水橋地区では、漁業者の高齢化により、平成14年ごろまで周年操業していた定置網は、平成15年以降はある程度の水揚げが見込めるホタルイカの時期（主に3月から6月まで）しか操業できない状態となっていた。

そのため、水橋の漁業者の多くは、残りの期間を漁業以外でアルバイトをして生活していた。

また、水橋で漁業だけで生計を立てるためには、定置網が周年操業できない状況になっていることもあり、定置網の漁期終了後、刺し網やごち網、一本釣りなどの漁業をすることが必要で、このためには、船を所有していなければ、漁業だけで生活していくのは難しい状況にあった。

これらのことから、水橋では若者が漁師としてなかなか定着せず、私が組合員として漁業を始めた平成14年ごろは、60歳以上の漁業者が26名で、30歳代以下の漁業者は私を含めて2名しかいなかった。このままでは水橋の漁業はいずれ人手不足に陥り、これまで伝承されてきた技術も受け継がれなくなると思い、水橋を若手漁業者が定着しやすい町とし、水橋の漁業を活性化させたいと考えた。

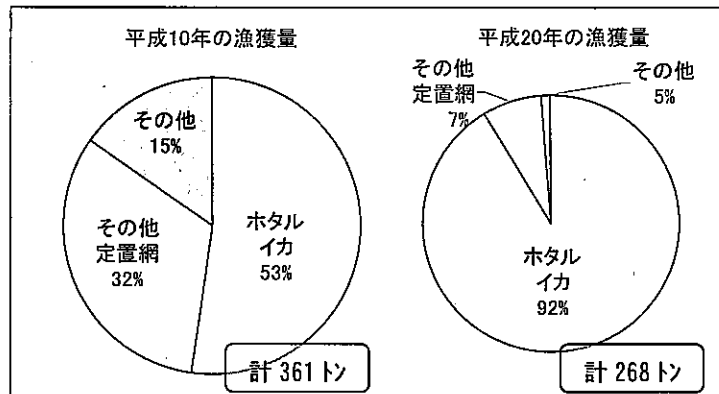


図2 水橋地区の漁獲量（平成10年及び平成20年）

### 4. 研究実践活動及び成果

#### (1) アルバイトの待遇の改善

水橋漁民合同組合で新人を採用した際は、最初の1年間は正組合員ではなく、アルバイトとして雇っているが、私が働き始めたころのアルバイトの賃金は4,000円/日と非常に低賃金であった。また、定置網の漁期が半年にも満たない期間だったことから、定置網の仕事だけでは生活するための収入は得られず、漁業以外のアルバイトと兼業して生計を立てざるを得なかった。しかし、兼業で定置網以外のアルバイトをするにしても、漁期以外の期間だけ働ける条件の良いアルバイトというのはなかなか見つからず、ある程度の収入を確保するためには、周年に渡って漁業以外のアルバイトをせ

ざるを得なかった。そのため、定置網のある時期は、定置網の仕事が終わった後にアルバイトに行っていたため、時間的にも体力的にも非常に厳しかった。このような状況だったため、せっかく就業してもアルバイト期間中に辞めてしまう者が多かった。

なお、このときの私の収入は、漁業以外のアルバイトに約35%を依存しており、漁業以外のアルバイトなしでは生活ができないとても厳しい状況であった。

そのため私は、アルバイト期間中は生活に苦勞すること、このままの状態では新たな就業者を確保することができないことを組合に訴え、これらの問題を解決するために、アルバイト賃金を引き上げるよう求めた。

そして私の思いが通じ、アルバイト期間の賃金が7,000円/日まで引き上げられた。その効果により、アルバイト期間中に辞める若者が激減し、6名の若者がアルバイト期間を乗り越えて水橋漁民合同組合の正組合員となった。

## (2) 県外出身者の定着しやすい環境づくり

私のような県外出身者にとっては、新たな場所で仕事をするには住居をいかに安く確保するかということが、生活していく上で非常に重要である。私が最初に水橋へ来たときは、最初の3日間は漁業者の家にお世話になり、その後、幸運にも先輩漁師に勧められて安い空き家を借りることができた。

私はこのように運が良かったが、県外出身者は一人で見知らぬ土地に来ると不安であることはよくわかる。私に続いて県外から来る者があつた場合、住まいがなく不安な思いをしないように青年部から組合に働きかけたところ、今では組合が漁港近くの条件の良い空き家を買取り、県外出身者などの遠方の者に安い賃料で貸し出すようになった。

このことから、県外出身者が一人でも安心して水橋に来られる環境になってきており、現在は3名の県外出身者が水橋に定着している。

## (3) 周年操業へ向けて

前述のとおり、定置網が周年操業できる状況ではないため、漁業一本で生計を立てるためには、個人が船を持って操業しなければならない。

船は引退した人から譲ってもらう必要があるが、私は定置網で仕事を始めて3年が経ったころ、日ごろの努力や漁師としてやっていきたいという強い気持ちが伝わり、高齢で引退することになった漁師から船を譲り受けることができた。

私は船を所有してから5年が経ち、今では刺し網やごち網、一本釣り、かご縄などの漁業を行い、アルバイトを兼業したところと同じくらいの収入が得られるようになったため、漁業一本で生計を立てられるようになった。

このように、引退する人がいないと船は手に入れないが、日ごろの努力が認められ、引退する人がいれば、



【刺網漁】



【ごち網によるシロエビ漁】

年齢や出身に関係なく船を手に入れることができることから、私の後から就業した者も、合計5名が周年操業できるようになった。

#### (4) 若手漁業者の誘致

若者や県外出身者が就業しやすい環境は整いつつあったが、人に来てもらわなければ意味がない。ただ待っていても人は来ないので、私たちはまず、自分の知り合いやつてを頼って、水橋で漁業をやりたい人を探した。

私の知り合いには、私と同じく漁業に興味を持っている人がいたので、水橋の漁業の魅力を語り、就業の環境も整っていることを説明すると、希望を持って水橋へ来てくれた。

このような輪がどんどん広がり、私が水橋に来たころは2名しかいなかった若手漁業者が、今ではアルバイトを含めて13名まで増えている。

また、さらなる誘致のため、私たち青年漁業者が県主催の漁業就業者フェアへ参加して就業者を募集したり、インターネットやハローワークなどで就業者を募集するなどして就業希望者への誘致活動を行っている。



【漁業就業者フェアに参加】

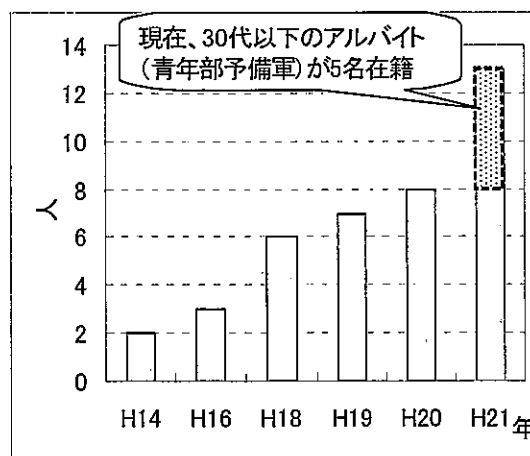


図3 青年部員数の推移

#### 5. 波及効果

若手漁業者が増えてきたことで、平成14年には60代以上が9割を超えていた定置網従事者の年齢構成が変化し、現在では、30代以下と60代以上の割合がほぼ半々となった。

このことから、青年部では、高齢化によりここ5年くらい操業がままならなかったホタルイカ以外の定置網の操業を昨年末から再開した。

現在は、まだ再開から日も浅く、あまり漁獲高も上がっていないが、再開によって定置網の入っていない時期が短くなり、安定した漁獲を得ることができるようになれば、皆がこれまでよりも安定した収入を得られるようになる。



【定置網の準備作業】

このことで、これまで個人の船を持たずにアルバイトと兼業していた者が、漁業だけに専念しやすくなり、新たな就業者を受け入れる余裕が広がるなど、多くのプラスの効果が期待される。

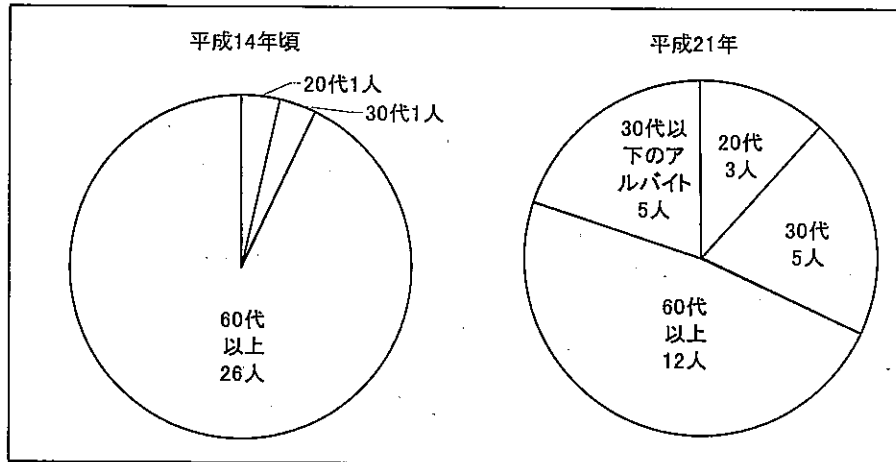


図4 定置網従事者の年齢構成の変化

#### 成果のまとめ

(1) アルバイトの待遇改善、就業者の誘致

→ 6名の若者が正組合員となり、アルバイトも5名加入した

(2) 住居の確保

→ (1)の内3名が県外出身者

活動を始めた当初、30代以下の青年部員は2名のみであったが、現在は青年部員8名、アルバイト5名の計13名となった。

水橋漁民合同組合の年齢構成が若返り、ホタルイカ以外の定置網が再開された。

更なる漁業後継者の確保が期待される

#### 6. 今後の課題と計画

定置網の操業していない時期は、個人の船で操業することによって周年漁業ができる状況になってきているが、個人の船を持てる人数は限られている。今後は、より多くの就業者が安定した収入を得られるよう、まずは昨年再開した定置網を軌道に乗せ、安定した漁獲ができるように多くの技術を学んでいきたい。そして将来的には、定置網だけで安定した収入を得られるような状況にしていきたい。

また、水橋の漁業者の年齢構成は、青年部は皆20～30代であるが、40代が全くおらず、その上は50代後半～70代となっており、最も働き盛りである中堅世代の漁業者が皆無の状況である。もしも、高齢者が一気に引退してしまえば、経験豊富な人材がいなくなって、新たに就業する人への指導が満足にできなくなる恐れもあり、とても不安を感じている。

このことから、今後は人材の募集だけでなく、人材の育成にも力を入れていく必要がある。働いているわれわれは、今から少しでも経験豊富な先輩たちから多くの技術を学んでいかなければならない。

「大不況」といわれるこの世の中で、漁師を夢見て就職活動をする人も多いと聞いている。さらに多くの若い漁業者を集め、富山そして水橋の漁業を活性化することを目標に、漁業を目指す人たちが「水橋で仕事をしたい」と思ってもらえる魅力ある環境づくりに今後も努力をしていきたい。

(第3種郵便物認可)

1994. 3. 19

北

愛知の小笠原さん(岐阜経済大)

# 漁業に夢

# 水橋で漁師に



富山市水橋町漁協のホタルイカ定置網を運営する漁民合同組合(館山信市組合長)で、今年大学卒業する愛知県出身の若者が漁師見習いとして働き始めた。岐阜経済大学四年の小笠原慶和さん(31)は、十六日から同組合員宅に泊まり込み、ホタルイカ漁や水揚げした魚の選別作業などに携わっている。小笠原さんは予想以上に漁業は楽しい。水橋で漁師になりたいと話している。

小笠原さんは愛知県大口町出身。一般企業を回る就職活動で「自分がやりたいことと違う」と感じ、夏から漁師になる方法を探し始めた。これまで全国の約五カ所の漁業協同組合に採用を問い合わせ、先週は石川県七尾市で漁業体験をした。

現在は毎朝午前二時半に起床し、ホタルイカ漁船に乗って網を引いたり、水揚げした魚を仕分けする作業を手伝う。現在は漁はシーズンを迎えているため、実質的な仕事は漁と水揚げの四時間ほど。当初は一週間ほどの漁師を目標して漁業見習いに励む小笠原さん(右)

富山市の水橋漁港

## 秋の正式採用へ見習い

見習いと考えていたが、秋からの正式採用を目指し、これから水橋で漁師になるための準備をしたい」と話し、漁師としての「水久就職」に気持ちが大きく傾いている。

昨年十一月に組合員になった舟橋村の小池冬実さん(30)は三宅島(東京都)出身で、「ぜひ一緒に働きたい」と新しい後輩にエールを送る。県内の各漁協では高齢化が進み、二十代の後継者は少ない。

館山組合長は「やがてのおおきな世代は大歓迎。組合や業界全体にも活気が戻る」と話し、今後組合員と小笠原さんの待遇などについて検討する。

【水橋に初めて来た頃の新聞記事(平成14年3月19日北日本新聞)】